
時を待ち

河衣小牧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
時を待ち

【Nコード】
N4145F

【作者名】
河衣小牧

【あらすじ】
季節の変わり目に、あなたがいてくれることの幸せ。きせつをまとう。ふたりで。

気づけば、列車の窓から淡く揺れるキリン草が眩しくて。
ひんやりと包み込むような空気はきりり、と澄み渡る様になった。

「……冬が始まると、」

あなたはほんの少し不機嫌そうに、マフラーに頬を埋めた《うずめた》。

「なあに？」

「……外、出たくなる。」

寒いから、なんて呟いているから、思わず笑みがこぼれる。

「……笑うなよ。」

「ごめん。」

でも、やっぱり笑ってしまふ。
ずっと前。出逢った頃は、話もまともに出来なかった。

まして、こんな風に自分のことを言う人じゃなかったし。
そう思うと、嬉しくて、うれしくて。

私だけが見ることの出来るあなた。

それに。

「私は好きよ?」

冬の日の外。

「なんで、」

だってね。

私の言葉に、ちょっとだけむくれたあなた。
でも、冬の日のそんなあなたは。

「……どうしたんだよ。」

ほら、こうして寄り掛かっても怒らないでしょう?.

夏場は

「暑い」とか、

「何となく」なんて理由で逃げるけれど。
所詮、あなたは冬の寒がりだから。

「ん、」

ほら、照れた顔で差し出された右手。

繋いでやる、と言わんばかりだけど、その表情が

「はやく、早く。」

なんて急かすから。

かじかんだ指先を包む様に握る。

この感じが好き。

きりり、と締まった空気の中、感じるのは徐々に似通ってくる体温。
きゅっ、と音を鳴らす爪先。

夏は

「暑いから」嫌いで、冬は

「寒いから」嫌い。

いかにもあなたらしい、我が儘な言葉。

時には呆れることもあるけれど、それも、やっぱりあなただから受け入れてしまう。

「……早く、春来ないかな。」

「……っ。」

「……だから、そんなに笑うなよ。」

だつて。

こんな大の大人が、もう何度迎えたであろう春を待ち侘びるのだから、

「可愛い人。」

いつもは、落ち着いた大人のあなたも、時にどうしようもない子供に戻る。

甘えさせてくれる貴方。
甘えてくれるあなた。

移り変わる季節を、2人、何処で迎えても、移ろう時を何度重ねても。

愛しい人は変わり無く。

この心には、ただ、ひとつの想いだけ。

いつまでも

あなたと春を待つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4145f/>

時を待ち

2010年12月18日23時50分発行